篠塚建次郎 70歳の挑戦

ラリー参戦 アフリカ再訪へ

生涯現役を貫くラリードライバー篠塚建次郎（70）が再びアフリカ大陸に挑むことになり、1日に東京都千代田区の東京中日スポーツを訪れ、熱い胸の内を語った。出場するのは、アフリカ時代のダカールラリーに似たルートで争うクロスカントリーレイドの「アフリカエコレース」で、2年間の準備期間を経て参戦にこぎ着けた。ラリーは2019年の元旦にスタートを切る。

やっぱりサハラ

団塊世代のヒーローは70歳になっても挑戦を諦めない。大ベテランの篠塚が12年ぶりにアフリカ大陸の戦いに打って出ることになった。

「また砂漠を走りたくなって。南米（ダカール）には出るつもりはない。やっぱりサハラ砂漠じゃなくっちゃ」

古希を目前にした2年前、篠塚はそう思い立った。ソーラーカーレースやクラシックカーのラリーには参戦を続けてきたが、1997年に日本人初制覇を果たしたダカールラリーで走ったアフリカのサハラ砂漠を無性に走りたくなったという。

ダカールラリーは治安上の理由で2008年大会を中止して以降、09年から戦いの場を南米に移した。競技性は高まった反面、冒険色は薄れ、篠塚は興味を引かれなかった。そんなときに知ったのがアフリカエコレースだ。

「知り合いから教えてもらって。フランスからフェリーでモロッコに渡り、モーリタニアを走って（セネガルの）ダカールにゴール。パリダカじゃないかと思った」

クラウドで資金

そこから〝オヤジの挑戦は始まった。参戦体制を作ることから始まり、資金集めに奔走。「全部1人でやっているから想像を絶する大変さ。細かな準備に始まり、スポンサーは何十社も回った」と漏らす。

暗中模索の中、コ・ドライバーを全日本ラリーに参戦するフランス人女性のカティ・ドゥローソ（30）に決め、南仏のラグードという町で自動車工場を経営するその父親をメカニックに迎えた。車両はいすゞのピックアップトラック「D―MAX」の中古を購入し、市販車クラスのラリーカーに仕立てた。

メインスポンサーは自動車の機械部分の抵抗を低減する特殊塗料「NATURAL TUNING（ナチュラルチューニング）」に決まったが、息子・建太さんの勧めでインターネットで資金を募るクラウドファンディングなども活用した。

「最近、団塊世代が元気がないと思って、頑張っている姿を見せたい。今回に限らず、喜寿まで出ようと思っている。何が何でもゴールを目指す」。70歳の記念参戦にとどまらず、篠塚の夢は膨らむ。（田村尚之）

清里でペンション 夫人と経営大忙し

○…篠塚は現在、山梨県清里のペンション「らべるでゅーら」のオーナーとしてひろ子夫人と忙しい日々を過ごしている。「2年前にテレビで紹介されてから、もう忙しくて…」。2000年から家族そろって渡仏した時には閉めてペンションを13年にリニューアル。クルマ好きや篠塚のファンがひっきりなしに訪れている。

★アフリカエコレース　2009年に始まり、次回大会が11回目。規則やルートはアフリカ時代のダカールラリーとほぼ同じで、次回は来年1月1日にモロッコのナドールをスタートし、13日にセネガルのダカールにゴールする。総走行距離は6500㌔で、モロッコで5、モーリタニアで6、セネガルで1カ所の競技区間を予定。

㊧本社を訪れアフリカ挑戦を熱く語った篠塚建次郎＝東京・内幸町の中日新聞東京本社で（市川和宏撮影）㊨アフリカエコレースで篠塚が乗る制作中のいすゞD―MAX（本人提供）

▼篠塚建次郎（しのづか・けんじろう）1948（昭和23）年11月20日生まれ、70歳。東京都出身。東海大学在学中からラリー活動を始め、三菱自動車入社後は社員ドライバーとして活躍。ダカールラリーは1986年に初挑戦し、97年に日本人として初制覇。2007年まで22回連続出場を果たした。世界ラリー選手権でも2勝を挙げた日本を代表するラリードライバー。

最後のシートはストロール

来季ラインアップ確定

F1 レーシングポイント

F1のレーシングポイント（旧フォースインディア）は11月30日、ランス・ストロール（20）＝カナダ＝を来季から長期にわたってレギュラードライバーに起用すると発表。最後に残った来季シートが埋まった。これと前後して、国際自動車連盟（FIA）が来季のF1エントリーリストを発表し、来季のドライバーラインアップが確定した。

父ローレンス氏がチームの経営陣に加わったことでウィリアムズからの移籍は規定路線だったが、ストロールは「新しい挑戦だ。この新しいチャンスを大事にしようと興奮している」と、3年目のシーズンへ心機一転の心境をリリースに寄せた。

また、9年ぶりの復帰になる、ウィリアムズのロベルト・クビサ（33）＝ポーランド＝の車番が「88」になったことや、レッドブルのチームの正式名称が引き続き「アストンマーチン・レッドブル・レーシング」で、新たに提携する「ホンダ」の名称が入っていないことなどが分かった。

◆2019年F1エントリー◆

車番	ドライバー（年齢／国籍／参戦年数）	チーム	パワーユニット
44	L・ハミルトン（33／英　国／⑬）	メルセデスAMGペトロナスモータースポーツ	メルセデス
77	V・ボッタス（29／フィンランド／⑦）		
5	S・ベッテル（31／ドイツ／⑬）	スクーデリア・フェラーリ・ミッション・ウィノウ	フェラーリ
◎16	C・ルクレール（21／モナコ／②）		
33	M・フェルスタッペン（21／オランダ／⑤）	アストンマーチン・レッドブル・レーシング	ホンダ
◎10	P・ガスリー（22／フランス／③）		
◎ 3	D・リカルド（29／オーストラリア／⑨）	ルノーF1チーム	ルノー
27	N・ヒュルケンベルグ（31／ドイツ／⑨）		
8	R・グロジャン（32／フランス／⑨）	リッチエナジー・ハースF1チーム	フェラーリ
20	K・マグヌッセン（26／デンマーク／⑤）		
◎55	C・サインツ（24／スペイン／⑤）	マクラーレンF1チーム	ルノー
☆ 4	L・ノリス（19／英　国／①）		
11	S・ペレス（28／メキシコ／⑨）	レーシングポイントF1チーム	メルセデス
◎18	L・ストロール（20／カナダ／③）		
◎ 7	K・ライコネン（39／フィンランド／⑰）	アルファロメオ・ザウバーF1チーム	フェラーリ
◆99	A・ジョビナッツィ（24／イタリア／②）		
◆26	D・クビアト（24／ロシア／⑤）	レッドブル・トロロッソ・ホンダ	ホンダ
☆新	A・アルボン（22／タイ／①）		
☆63	G・ラッセル（20／英　国／①）	ウィリアムズレーシング	メルセデス
◆88	R・クビサ（33／ポーランド／⑥）		

【注】☆＝新人、◎＝移籍、◆＝復帰。参戦年数は2019年を含む。年齢は12月2日現在

万璃音 上達へ確かな手応え

F2 GP3 アブダビ合同テスト 第2日 11月30日 ヤスマリーナサーキット（アラブ首長国連邦）

ペン&カメラ＝石井功次郎

F2テストに初参加した佐藤万璃音（まりの、19）は、初日のカンポスから、当初の予定通りアーデンにチームを替えて走行。クルマへの違和感もあって19番手に終わったが、上達しつつある手応えを感じたようだ。F2に復帰するカーリンの松下信治（25）は5番手。GP3の初テストに臨むイエンツァーの角田裕毅（18）は8番手だった。

異なるクルマに苦戦も成長実感

チームを移って異なるクルマを駆り、苦戦しながらも万璃音が確かな進歩を感じ取った。「大きな収穫はなかったけど、60周近くを走って20周くらいプッシュした。新品タイヤへの熱の入れ方、使い方など、初日よりうまくなった」

最初、アーデンのクルマは乗りにくかったが、夜の走行では自らセットアップ（車体調整）の方向性をエンジニアに示し、昼間のタイムを約1・4秒削った。

だが、ほかの有力チームは昼に空力テストなど重要メニューをこなし、夜に本格的なアタックを試すことになったため全体のタイムが上がり、万璃音は19番手止まりだった。「悪くなかったが、アウトラップなどもチームの要望通りに走れたし、成長したと思う」

初のF2テストはまず慣れるのが目標。たとえ一歩ずつでも前進の手応えはうれしい。今季の欧州F3はランク16位で、来季は「最善の進路を検討中」という万璃音。テスト最終日は再びカンポスで走行する。

松下5番手も不満

○…1年ブランクを置いて再出発する松下は、5番手にも満足しない。昼は中古タイヤでレースシミュレーション。連続走行に集中し12番手だったが、夜のセッションで新品タイヤを履き、タイムを削った。「まずまずのテストをこなせている。ここまでは大体トップ5の1人だけど、そもそもいつもこのくらいにいないと」。F1に行くため、狙うはランク4位以上。来季の戦いはもう始まっている。

◆F2アブダビ合同テスト 第2日◆
（11月30日／ヤスマリーナ／1周＝5.554㌔／路面D）

順	ドライバー	国籍	チーム	タイム	周
1	J・M・コレア	USA	チャロウズ	1:49.958	56
2	M・シューマッハー	GER	プレマ	50.166	65
3	L・ギオット	ITA	ロシアンタイム	50.168	48
4	S・セッテカマラ	BRA	ダムス	50.223	64
5	松下信治	JPN	カーリン	50.227	62
13	G・アレジ	FRA	トライデント	50.657	58
19	佐藤万璃音	JPN	アーデン	51.539	55

【注】タイヤはピレリ。国籍：BRA＝ブラジル、FRA＝フランス、GER＝ドイツ、ITA＝イタリア、USA＝米国。　※出走20台

◆GP3アブダビ合同テスト 第2日◆
（11月30日／ヤスマリーナ／路面D）

順	ドライバー	国籍	チーム	タイム	周
1	N・カリ	FIN	トライデント	1:54.683	44
2	J・ダルバラ	IND	カンポス	54.689	58
3	R・フェルスホール	NED	MP	54.799	58
4	L・サージエント	USA	トライデント	54.983	58
5	L・ルンドクビスト	SWE	カンポス	55.041	55
8	角田裕毅	JPN	イエンツァー	55.177	54

【注】タイヤはピレリ。国籍：FIN＝フィンランド、IND＝インド、NED＝オランダ、SWE＝スウェーデン。　※出走20台

ハルクプロ 来年は無冠返上!!

本田会長ら感謝の夕べで逆襲誓う

全日本ロード

全日本ロードの名門チーム「ハルクプロ」は11月30日、東京都立川市で今年で14回目を迎えた「'18ハルクプロ感謝の夕べ」を行った。冒頭あいさつに立った本田重樹会長（68）は「今年はシーズン最終戦まで未勝利でややもやしたが、最終戦で名越がJGP2で優勝してくれた。今年は世代交代のシーズンでタイトルは取れなかったが、来年は期待している」と巻き返しを誓った。

最高峰JSB1000クラスに挑んだルーキーの水野涼（20）は4位を最高にランク11位に終わり、「昨年のチャンピオンの高橋巧さんに続こうと思ったが、JSBのレベルの高さを痛感した。8耐でも自分の転倒でリタイア。来年は優勝を目標に、ここでいい報告ができるようにしたい」と反省しきりだった。

今年で結成31年目のハルクプロはこれまで通算85勝、15回のタイトルを獲得し、8耐でも3勝の強豪。昨年は3クラスを制覇したが、今年は無冠で、8耐もリタイアと悔しい思いをしただけに、本田会長は「昨年に引き続き全日本100勝達成が目標」とハッパをかけた。（遠藤智）

来季の健闘を誓ったハルクプロの本田会長（左から2人目）とスポンサー幹部、ライダーたち（遠藤智撮影）

来季は榎戸も参戦

○…来季の体制も発表され、JSBの水野涼とJGP2の名越哲平（21）、スポンサーが違う別チームとしてST600の上原大輝（21）、MFJ CUP JP250の赤間清（51）の4人が継続参戦。新たにJGP2の榎戸育寛（20）が加わることになった。

GP3角田 最終日巻き返しへ

○…GP3テスト初挑戦の角田は2日目トータルの8番手。「アンダーステア（曲がりにくい症状）がきつかった。新品タイヤを履いたときにブレーキングでミスしていいタイムが出せなかった」と前日より遅いタイムに悔しさを隠せない。「クルマのグリップ（接地力）は全体的に上がり、先が見えるセッティングは見つかった。これを詰めて、走りをまとめたい」と最終日を見据えた。来季は新シリーズのF3選手権に参戦する。

参加者に妙技を披露する藤波（藤田秀二撮影）

藤波&小川らファンと交流 トライアル

トライアル世界選手権を戦うモンテッサ・ホンダの藤波貴久（38）の愛称を冠した「フジガスミーティング2018」が1日、愛知県岡崎市のキョウセイドライバーランドで開催され、藤波と、全日本選手権を6連覇した小川友幸（42）＝ホンダ＝らがファンと交流した。

参加者と選手による対抗戦形式のミニコンペを行い、最後は藤波、小川らの講師陣が頂点の妙技を披露した。

小川が藤波の帰国に合わせて発案。「ファンの皆さんとなるべく近い関係性を持てるように、練りにねったつもり。これからも続けたい」と小川が言うと、藤波も「昨日スペインから帰国して、小川さんにおんぶにだっこでしたが、皆さんに助けていただいてこのイベントができました。この先もまだまだ続けて頑張ります」と笑顔で応えた。（藤田秀二）

今日のTV

◆「My Way～世界ラリー2018～#3」（テレビ朝日午後11時23分～同29分）
◆「SUPER GT＋」（テレビ東京系午後11時30分～深夜0時）
◆「カーグラフィックTVメモワール〝カンクネンとオリオールWRCセリカの時代〟」（BS朝日午後11時30分～深夜0時）
◆「WEC第5戦上海ダイジェスト」（BSフジ深夜1時10分～2時15分）

WEBサイトでもチェック！
「トーチュウF1EXPRESS」
(f1express.cnc.ne.jp)

レイアウト☆山田　浩司